

札幌市経済局が実施する 『道内連携の取組』

1. 札幌市まちづくり戦略ビジョン(札幌市の最上位計画)における道内連携の位置付け

- 「北海道の発展なくして、札幌の発展はない」との考え方の下、札幌・北海道が持つ資源を生かしながら、北海道全体の未来を創造するという、札幌市の指すべき都市像を掲げている
- 北海道と札幌市の役割分担を明確にしていくとともに、様々な分野において連携を深め、北海道や道内市町村との互恵的(Win-Win)な関係を築いていく「道内連携推進プロジェクト」を展開

2. 道内連携の主な取組

①6次産業化の推進

◆道内連携マッチング事業

- ・札幌市の外郭団体である「さっぽろ産業振興財団」に、道内の1次生産者を中心に訪問してニーズ調査を行う道内連携コーディネーターを2名配置(平成26年度から1名増員)し、札幌市内の2次、3次産業者とマッチングを行う

<マッチング事例>

ラワンぶきを活用した商品開発を検討していた『JAあしよろ』と、札幌市内の食料品製造業である『(株)北都』をマッチングし、ラワンぶきカレーなど2商品を開発



◆6次産業活性化推進補助事業

- ・道内の1次生産者と、札幌市内の2次、3次産業者が連携し、北海道の農水畜産物資源を活用した新商品開発を行う取組に対する補助(上限額400万円、補助率2/3)

<採択事例>

道産ブランド和牛を使った家庭で食べられる「生ハムユッケ」の開発。

1次生産者:『上村牧場(白老町)』

2次産業者:『札幌バルナバフーズ(株)(札幌市)』



②コンテンツを活用した高付加価値化

◆コンテンツ活用促進事業費補助金 <<26年度新規>>

- ・札幌市内のクリエイター等と連携して、コンテンツの力で経営の活性化を目指す北海道内の中小企業等への補助
(上限額200万円、補助率1/2)



インタークロス・
クリエイティブ・センター

<採択事例>

伊達市内の1次生産者『鈴木農園』と札幌市内のクリエイターの連携による「無農薬米ファン拡大作戦」

③企業立地

◆札幌圏設備投資促進補助金 <<26年度から運用>>

- ・食関連分野、先端技術分野の工場などの新規立地について、市内だけでなく、札幌圏に立地した場合でも補助金を交付

【札幌圏】札幌、小樽、石狩、当別、江別、北広島、恵庭、千歳

【補助内容】固定資産税の課税標準額に対する補助
(限度額:市内10億円/市外5億円)

<企業立地事例>

平成27年度に『(株)ユニシス(医療用機械器具製造業)』
平成28年度に『中北薬品(株)(医薬品製造業)』
がそれぞれ北広島市に立地を決定



④国内の販路拡大

◆卸売キャラバン隊商談会

- ・札幌市内の卸売企業を道内の参加都市へ派遣し、現地メーカー(参加都市及び周辺市町村)の工場等視察及び商談会を実施

<平成26年度実績>

- ・帯広市:8月21日 :卸売企業9社、メーカー14社、計54商談
- ・室蘭市:9月11日 :卸売企業8社、メーカー13社、計36商談
- ・北見市:10月14日 :卸売企業9社、メーカー23社、計59商談

⑤海外の販路拡大

◆外食産業海外展開支援事業 《26年度新規》

- ・香港で開催される Food Expo(フードエキスポ)内の「グルメゾーン」に、北海道ブースを設け、外食産業への出展を支援(8月14日～17日)
- ・現地一般消費者に対するマーケティング活動、
現地外食産業関係者との個別ビジネスマッチング機会を提供
(旭川市と連携して実行委員会を設置のうえ事業実施)
- ・参加企業8社(うち2社は旭川市内企業)

◆道産有望食品(酒類)のブランド化事業 《26年度新規》

- ・酒をキーワードに道内連携による北海道有望食品の訴求と
売り込みのためマーケティング調査を通じ海外への販路拡大
を図る(開催時期は27年1月末を予定)

- ①酒蔵視察ツアー(小樽市と連携して事業実施)
- ②バイヤー招聘商談・交流会
- ③道産酒類販路拡大に向けたPR・マーケティング



3. 北海道内都市経済活性化会議(通称10都市会議)

- 道内各市単独での産業振興には自ずと限界があることから、各市がその強みを活かし、弱みをお互い補完し合いながら連携して経済、産業の発展を目指していくことが重要
- 道内各市が会し、連携・協力のあり方などについて意見交換するとともに、協力して事業に取り組むことを目的に、平成22年8月に「北海道内都市経済活性化会議」を設置

【参加都市】

旭川、江別、小樽、帯広、北見、釧路、苫小牧、函館、室蘭、札幌

【27年度以降に予定している連携事業の一例】

- ・函館市アンテナショップ「北海道10都市フェア」開催事業
- ・地場産品のテストマーケティングブース開設事業